

議長（高木将君） 次，12番菊池伸也君の発言を許します。

〔12番 菊池伸也君登壇〕

12番（菊池伸也君） 12番菊池です。ただいま議長のお許しをいただきましたので，通告順に質問をいたします。

最初に，常陸太田市の観光振興についてであります。観光は，生活者にゆとりや豊かさを与え，また地域を活性化する振興策として大いに期待が高まっております。一方で，観光をめぐる状況は，団体旅行から個人旅行へとシフト，ドライブ観光の増加，グリーンツーリズムやエコツーリズムなどの増加など，大きく変化をしております。これからの観光は，従来の有名観光地だけでなく，何気ない地方の暮らしを体験するなど，地域の観光や産業，文化そのものを観光対象としてとらえる広がりを見せております。

本市には，ご承知のとおり，西山荘を初め竜神大吊橋や里美牧場，西金砂湯けむりの郷など，歴史や自然を生かした多くの観光資源があります。また，人口減少を迎えている今日，経済効果を初め，さまざまな波及効果をもたらす観光の振興を図り，交流人口を拡大することは，非常に重要なこととあります。

このような状況を踏まえ，私は観光振興を推進するための基本的な方針等，取り組むべき施策を示す観光振興戦略プランなるものを，現在策定に向けて検討が進められている市の総合計画の分野別計画として策定するべきであると考えます。

一方，観光行政を見る限りにおいては，旧3町村，つまり支所の方が本庁よりも熱心な取り組みがなされていたように市長も感じられていることと思います。来年度，新しい常陸太田市機構図により，支所組織も大きくさま変わりするわけではありますが，観光分野においては，そのままの組織を維持し，むしろ旧4市町村で行われていたイベントやPRについて，相互連携を強化していくべきであると考えます。

行政運営は，組織ではなく，最終的には人が行っていくものであり，特に観光は携わる職員の意識，熱意によって成果が異なってきますことから，適材適所の職員配置についてもご配慮をお願いしたいと思います。水府支所におきましては，今年度，担当職員1名を残し，課長，課長補佐，担当職員の3名を異動させております。

そこで，市長は観光振興，観光産業についてどのように認識しておられるのか，また本市の観光振興について，今後どのように取り組んでいかれるのかお伺いいたします。

次に，奥久慈県立自然公園の環境整備についてであります。常陸太田市北部の県立自然公園の中には，男体山と白木山に囲まれた穏やかで自然あふれる里山の風景が広がっております。標高が約450メートル，竜神川源流の持方地区であります。白木山の山頂は，標高614.5メートルで，裾野には牧場跡地に旧水府村で広葉樹を植栽したすいふ恵海の森が整備され，この森を中核に，男体山と白木山を巡るハイキングコースが，里山トレイルウォーククラブの野田洋平先生や，水府産業観光課，地元持方地区の人たちの手で整備をされました。このハイキングコースは，ゆっくり歩いて三，四時間の所要時間でありませす。ナラ，クヌギ，ブナ，ヤマザクラ，ソネなどの生えている登山道を，幾度かピークを

登りおりし、森林浴を楽しみながら白木山頂では360度の眺望を十二分に堪能でき、春一番にはダンコウバイが咲き、4月にはイワウチワの群落の可憐な花をめでることもできます。5月の連休のころともなると、ヤマツツジやミツバツツジの花が登山道を埋め尽くすなど、すばらしい自然豊かなコースであります。

ことし4月29日の読売新聞に、里山トレイルウォーククラブの野田洋平先生が記事を書かれ、男体山と白木山を巡るハイキングコースを詳しく紹介されております。それ以来、持方地区を訪れて、持方を基点に、男体山、白木山を歩く登山客がどっと押し寄せるようになったと聞いております。ハイキングを楽しんだ人たちのもう1つの楽しみは、地場産品の自然食材を地元で購入することや、地元ならではの味覚が味わえることであると思います。幸い、持方地区にはコンニャク、ハクシャクカボチャ、アカカブなど野菜の自然食材が豊富にそろっております。

ただ1つ困惑しておりますのが、ハイキングに訪れた人たちのトイレの対応であります。このすばらしい県立自然公園の環境を維持するため、そして持方地区にいつまでも観光客が喜んで訪れるようにするためには、公衆トイレの設置を早急にするべきであると思いますが、執行部においてはどのように考えられているのかお伺いをいたします。

次に、有害鳥獣の駆除対策と規制緩和についてであります。この質問については益子議員とダブりますが、私なりの観点から質問をさせていただきます。

昨年度、狩猟期間を、通常年よりもイノシシに限って1カ月間延長されたことは記憶に残っていることと思いますが、今年度に入り、各地域でイノシシの被害を訴える市民が数多くいます。このままの状態が続くようであれば、農業を継続することはほぼ不可能に近いと言われる方がほとんどであります。被害は、米、そばにとどまらず、ジャガイモ、サトイモなどのいろいろな作物までが被害を受けており、また、山間部の畑の土手や道路の端なども著しく壊されております。このまま被害が拡大していく状態が続いた場合、田畑の耕作放棄地が一気に増加することは言うまでもないと思われます。そこで、執行部での被害の実態調査はどのように行って、どのように把握されているのかお聞きいたします。

また、個人で自分の田畑の作物をイノシシの被害から守るには、電気柵が一番効果絶大であると言われております。この電気柵は、合併前には50%の補助が受けられているようになっておりましたが、現在は打ち切られております。山間部での農業人口は高齢化が進み、非常に厳しい状況下にある上に、このままイノシシの被害が続けば、農業振興などとても考えられませんので、この際、電気柵の補助事業を再開するべきであると思いますが、執行部の考えをお伺いいたします。

さらに、イノシシの駆除についてであります。昨年度の実績は、平成17年度の事務に関する説明によりますと、捕獲頭数は34頭であります。イノシシは、年に2回も子供を産むと言われております。1頭が6頭から7頭の子供を産むとすれば、捕獲頭数よりもはるかに上回り、確実にふえていくと推定されますが、今後の有害鳥獣の駆除対策について、有効な駆除の方法あるいは駆除申請期間の変更等の柔軟な対応などを含め、どのよう

に考えられているのかお伺いたします。

以上で1回目の質問を終わります。

議長（高木将君） 答弁を求めます。市長。

〔市長 大久保太一君登壇〕

市長（大久保太一君） 常陸太田市の観光振興についてのお尋ねにお答えを申し上げます。

先ほど19年度の予算編成方針の大づかみの中でも申し上げましたように、この観光産業は当市にとりまして、交流人口の拡大ということ、さらには地場産業への波及効果ということを考えましたときに、力を入れていく課題だというふうに考えているところでございます。最近、観光産業を取り巻きます環境が目まぐるしく変化をしているところでございますが、体験型の地域観光に加えまして、ハイキングや、議員ご指摘のとおりトレッキング、さらには町中散策のウォーキングなども加わりまして、少人数、あるいは個人の観光需要にシフトしている現状下でございます。

市内には、ご案内のとおりでございますが、佐竹氏や徳川家所縁の施設が点在をいたしておりますし、地域には誇れる自然環境、あるいは観光施設を数多く有しておりますので、これらを効果的に活用しながら、市内に訪れる人をふやして、地域の活性化に努めてまいりたいというふうに基本的には考えているところでございます。

そのためには、できるだけたくさんの人に常陸太田市を知ってもらう必要がありますし、観光施設や史跡の環境整備だけではとどまらず、市民一人一人が温かくもてなし、この地に来てよかったと感じていただけるようなムードをつくり上げることが大切だというふうに考えております。市民みずからが地域にある自然を大切に、磨きをかけて、活性化させることも必要でありますし、そのためのシステムや環境整備を市民と行政が一体になってつくり上げることが求められております。

今まで観光イベントなどにつきましても、どちらかといいますと行政がお膳立てをしたものを地域で取り組むというよりは、これからの考え方でございますが、地域が中心となって計画したものを行政が後押しをするような形に行くことが望ましい将来の姿ではなかろうかというふうに思います。それぞれのイベントを通じまして、何のためにそれをやるか、それは地域の経済効果が生まれることが、1つは大きな目的であります。このような考え方で、今後とも進めていきたいというふうに思うところであります。

なお、観光振興策を進めるに当たりまして、総合計画の中に位置づけをして、この実行計画をつくるべきではないかというお話が、ご提案がございました。基本計画におきましては、協働によるまちづくりと、地域資源を磨き、活用するまちづくりを基本としておりますことから、グリーンふるさと振興機構、あるいはJA、商工会、関係機関との連携のもとに、生涯学習や農政部門などと組織横断的に取り組むことといたしております。したがって、この実行に当たりましては、当然、プランニングが伴います。これらを進めていきたいというふうに思うところであります。

さらに、地域での支所、特に支所での観光の企画立案等についての人員配置につきましてお尋ねがございました。来年4月1日からの機構改革に向けまして、適切な人員配置をしていきたいと思っておりますが、繰り返しとなりますが、先ほど申し上げましたように、行政がお膳立てをしてこれからのイベントを続けていくということから、地域がお膳立てをして行政が後押しをしながら進めていくのが、長続きをするイベントのあり方だということを中心に考えてまいりたいというふうに思うところでございます。

議長（高木将君） 産業部長。

〔産業部長 小林平君登壇〕

産業部長（小林平君） 3点目の有害鳥獣の駆除対策と規制緩和についてお答えいたします。

まず、被害の実態調査とその把握の方法についてであります。被害を受けられました農家の方などからの連絡を受けました後、県の鳥獣保護員に連絡をとりまして、市職員とともに現地の調査を行っております。その際、被害の状況などについての写真撮影や、位置の記録と状況確認を行っているところでございます。これらの現地調査の結果は、捕獲隊との打ち合わせに使用しております。また、現地調査時に農家に対しまして農地のイノシシの侵入を防ぐための防護措置をとっていただくようお願いしているところでございます。

次に、電気柵の補助事業の実施についてのご質問でございますが、前にも述べました農家の方の防除される……、農家の方々が防除されている中、その対策といたしまして、議員の発言にもございましたとおり、電気柵による防除が効果的であるとらえているところでございます。つきましては、電気柵の普及を図り、被害を最小限に食いとめるための措置といたしまして、補助制度の導入について現在、調整を進めているところでございます。

次に、今後における有害鳥獣の駆除対策についての考え方についてお答えいたします。

まず、有効な駆除の方法についてであります。1つは捕獲隊との協議を密にいたしまして、活動をしやすい体制のあり方、あるいは隊員の出勤できる期日等の設定などを整えまして、実施してまいりたいと考えております。2つ目は、銃器による捕獲を主としているところでありますが、わなによる捕獲を全地域に普及させ、捕獲率のアップを図るよう、捕獲隊と協議を進めてまいりたいと考えております。

次に、駆除申請期間の変更など、柔軟な対応ができないかのご質問についてでございますが、許可の発動に関しましては、安全確認のための手続が必要とされております。1つは、茨城森林管理署への協議でございます。これは、山で働く茨城森林管理署職員等に、銃器を使用した捕獲実施を周知しまして注意を喚起すること、また、国有林での捕獲と立ち入りについての許可を求めるものでございます。2つ目は、地域住民への周知でございます。防災行政無線等により広報を行い、安全を図っております。3つ目は、隣接市町村への周知でございます。これは文書により実施の旨の内容を記載し送付しております。

4つ目は、警察署への通知であります。これも文書により使用銃器の登録番号及び捕獲計画書、それから実施区域図を添付の上、提出しております。5つ目は、県への協議であります。6つ目は、一般住民等の参集する施設への通知でございます。例を挙げて申しますと、県立西山研修所や、市内のすべてのゴルフ場等であります。それから、常陸太田市森林組合、各町会長、区長そして各鳥獣保護員などとなっているところでございます。7つ目は、捕獲隊に対しまして、有害鳥獣捕獲隊従事者証等交付式を実施しております。その中で、出勤における注意事項を伝達しております。現在、捕獲隊は常陸太田市有害鳥獣捕獲隊として一本化され、活動しているところでございますので、隊長さんを初め各隊員との共通認識を図る上でのスムーズな運営ができる体制が構築できたものであるととらえております。

今後におきましては、十分な安全対策を講ずるとともに、有効な捕獲活動ができるよう、捕獲隊と協議を重ねながら進めてまいりたいと考えております。

以上です。

議長（高木将君） 水府支所長。

〔水府支所長 根本洋治君登壇〕

水府支所長（根本洋治君） 奥久慈県立自然公園の環境整備についてのご質問にお答えいたします。上高倉町持方地区に位置する男体山、白木山は、自然環境に恵まれているため、多くの方々がハイキングに訪れています。ことし4月に新聞で男体山と白木山を巡るトレッキングコースが紹介されてからは、訪れる方々が大幅に増加をしております。

しかしながら、持方地区には公衆トイレが設置されていないため、地元が自主的に持方地区集会所のトイレを開放して対応をいただいているところであります。今後もこのような形で地元の対応だけをお願いすることはできない状況にありますので、公衆トイレを早期に設置し、当地域の環境保全と持方地区を訪れる方々の利便を図る必要があると考えております。このため、平成19年度において、トイレを整備するための調整をしているところでございます。

議長（高木将君） 12番菊池伸也君。

〔12番 菊池伸也君登壇〕

12番（菊池伸也君） 2回目の質問をいたします。

最初に観光振興についてであります。里美や水府地区の自然景観や西山荘などの歴史的建造物にしがみついただけの観光地や、単に温泉が出るというだけの温泉地は、その集客数の低下に歯どめが効かない状況にあると伺っております。特に現在の観光客は、せっかく長い時間をかけて訪れた観光地で、歴史的建造物や景色を見るだけでは満足しないとのことでもあります。その土地でそのときにしかできない体験をして、おいしいものを食べ、ゆったりとした旅館に泊まり、気の利いたお土産を買うことができれば満足度がアップし、また訪れたいという気持ちにつながると思います。このため、地域の特産品や地元料理、観光資源などをうまく結びつけて、地域のイメージを高め、人、物、金を流入させて、地

域を活性化しようという取り組みが全国で積極的に行われています。

具体的には、食をテーマに、観光の活性化に成功した例として、長野県の小布施町があります。ご存じのように、小布施町は「栗と花と北斎の町」をキャッチフレーズに、年間100万人を超える観光客でにぎわう観光地であります。栗菓子製造・販売の小布施堂が店を大きな屋根がわらと格子構えにし、土蔵のわきに栗の小道を配置して、観光客が散策できるようにしたのをきっかけに、他の店も次々ときれいな和風の町並みに修景していったことでもあります。結果として、小布施堂は栗菓子という商品と町のイメージをセットにすることで、他の地域と一味も二味も違ったブランドとなることをねらい、見事に成功したといえると思います。

このような食をテーマにした観光振興について、旧常陸太田市の中心市街地の活性化を図る観点からも、ぜひとも取り組んでいただきたいと思います。そこで、食をテーマにした観光の活性化について、市長の考え方を伺います。

次に、奥久慈県立自然公園の環境整備についてであります。たくさんの観光客がこれからも訪れていただくために、ぜひ早急にトイレの整備をお願いすることを要望しておきます。

次に、有害鳥獣の駆除対策と規制緩和についてであります。駆除隊の人数についてありますが、80人から60人に削減をしております。今、この駆除隊に申請していただく許可は市長の許可になるわけなんです。土曜、日曜だけではなく、平日でも被害を受けた場合にすぐ対応できるような体制を整えるためには、より効果的な人員の配置を行うことが肝心であると思いますので、駆除隊の削減について、どうして削減したのか、その理由をお伺いしたいと思います。

また、先ほどご答弁いただきましたが、わなの話であります。今は銃を中心に行っているわけですが、インターネットなどで検索をしてみますと、囲いわなや箱わな等、各地でこういうことで効果を上げている地域もありますので、そういうことも検討に入れて、今後やっていただきたいと思います。

以上で2回目の質問を終わります。

議長（高木将君） 答弁を求めます。市長。

〔市長 大久保太一君登壇〕

市長（大久保太一君） 2回目のご質問の中で、食をテーマにした観光の活性化というお尋ねがございました。ご案内のとおりでございますが、この常陸太田市の地域でとれまじす食材は、常陸秋そばを初め、米、シイタケ、さまざまな野菜や、あるいは乳製品など、たくさんのものを持っているわけでございまして、これらを活用した観光対策も当然視野に入れながら、関係機関と連携をして進めていきたいと考えております。

特に全国に知名度の高い常陸秋そばにつきましては、皆様方のご努力もございまして、金砂郷、水府、里美地区ではこの活性化のためにそばを活用した地域振興が進められているところでございますが、一層の宣伝によりまして活性化につなげ、そして地域の経済効

果に結びつくような手立てを考えてまいりたいと思っております。

先ほど、小布施町を参考といたしました中心市街地の活性化に食をテーマとしての取り組みはどうかということでございますが、中心市街地活性化基本計画におきましても、同様の提案が行われております。活性化の有効な手段として、商店会及び商業者と合意形成を図りながら取り組んでまいりたいと思っております。

ご参考までに、グリーンふるさと振興機構が、旅行業者の認可を得まして、いろんなコースで設定をしましたところ、この太田市内の歴史的な施設等を散策をし、最後に中心市街地で食事をして帰る、そういうコースが最も人気があったようでございまして、データからも裏づけをされておりますので、先ほど申し上げましたような考え方で進めてまいりたいと思います。

議長（高木将君） 産業部長。

〔産業部長 小林平君登壇〕

産業部長（小林平君） 2回目のご質問にお答えいたします。

捕獲隊の人数、これが60名になったということの理由ということでございますが、駆除隊、各それぞれの地域にございましたが、組織の一本化に当たりましては、全市を対象とした場合、60名で対応が可能というようなことで、協議の中で決定されたということでございます。

議長（高木将君） 12番菊池伸也君。

〔12番 菊池伸也君登壇〕

12番（菊池伸也君） ご答弁ありがとうございます。3回目になりますので、要望のみにとどめさせていただきます。

常陸太田市の観光についてであります。現在、いろいろと進められております観光振興についても、さまざまな角度から考えられておりますが、観光客が減少の一途をたどっているような感じであります。今後、この常陸太田市の財政を考えた場合、観光は大変重要なウエートを占めるのではないかと思います。市の総合計画の中でも挙げられておりますけれども、ぜひ100万人ぐらいの観光客が毎年訪れるような策を、地域の人と合わせて行っていただきたいと思っております。

それから、イノシシの駆除であります。これはぜひ、農業をやっている人にとりましては大変収穫の際にイノシシに荒らされる、大変落胆をしているわけでありまして、これも駆除と動物の保護との観点から、双方相違った形ではあります。ぜひ被害を最小限にとどめるような方法でお願いしたいと思います。

以上で私の一般質問を終わらせていただきます。